

## ボローニャ大学ジャコモ・マンツォーリ教授の講演会を開催しました

平成 27 年 10 月 15 日(木)、ヨーロッパ最古の大学 (1088 年創立) として知られるイタリアのボローニャ大学芸術学部のマンツォーリ教授を山形大学に招き、講演会を開催しました。マンツォーリ先生はイタリア映画史とドキュメンタリー映画史が専門で、折しも開催されていた山形国際ドキュメンタリー映画祭の時期にあわせ来形しました。

招いたのはボローニャ大学との学術交流交渉を進めている基盤教育担当の山本陽史教授です。映画祭の視察をふまえ、15 日に 2 つの講演会を開催しました。

まず、14 時半から、山形大学国際事業化研究センター・人文学部映像文化研究所・基盤教育院研究部との共催で「映画におけるフィクションとノンフィクションとの間」というタイトルで開催しました。言語は英語で山形市元教育長の大場登氏に通訳をお願いしました。教授はドキュメンタリーと劇映画の境界が曖昧になりつつある近年の映画の傾向について話されました。学生・教職員・一般市民あわせておよそ 60 名が熱心に聴講しました。

また、夜は 18 時から、ゆうキャンパスステーション (大学コンソーシアムやまがた) で、主として一般市民対象の講演がありました。主催者として映像文化研究所にかわり、ボローニャと山形の交流を通して山形の町作りを考える市民の会「チェントロ・ポルティコ文化研究会」が加わりました。やはり英語で行われた講演の通訳は山本教授がつとめました。「イタリア・ボローニャにおける最近の映画の動向」というテーマで、ボローニャ市がイタリア映画史の中で重要な役割を果たしてきたことが具体的な人名や作品名を挙げつつ解説し、イタリア映画界の将来展望についても言及されました。およそ 25 名が聴講し、多くの質問が出るなど、活発に議論が展開されました。



(14 時半からの人文学部での講演会の様子)